

美濃派の俳諧師



たかぎらんか
高木巒化

—1880

大野政田村(現在の本巣市政田)の庄屋の家に生まれる。本名を耕平といい、字を是山と称し、春秋庵巒化、四海仙、赤子仙、柿本舎などの号がある。百茶坊と同じく高木家出身で、庄屋をつとめ、政田地区の灌漑に貢献した。大垣藩家老小原鉄心と親交を結び、鉄心が是水と号したのに対し、巒化は是山と号した。嘉永3年(1850)道統十三世を継承後、防長九州へ行脚した。余浄寺門前には百茶坊とともに句碑が建てられている。「ぬぬるともあの雲までの時雨かな」